

## 新郎・男性ゲストのテンションを上げる “魔法のスイッチの在りか”を探す

静岡で活躍するカルロス浅井氏は、年間の実施回数はそれほど多くないが、毎回、オリジナル度の高いウエディングを実現している。その熱の入れようは「2週連続だと倒れてしまう(笑)」ほど。そんなカルロス氏に、いかにすれば新郎・男性ゲストの気分を盛り上げることかできるのか?のヒントを語っていただいた。

<お話を伺った方>

カルロスウエディング (by エモーションカンパニー)

代表/フリーウエディングプランナー カルロス 浅井氏



### 新郎新婦で異なるこだわりポイント 見極めと調整が必要

「男性のプランナーとしてのメリットは、新郎に強く言えること」と語るカルロス氏。男性の気持ちや考え方が分かるので、時にはそれをカルロス氏から新婦にうまく伝えることでふたりの考えを調整し、意思統一を図っているという。

「僕にプロデュースを頼みたいとやってくるおふたりは、友人たちとにぎやかにパーティーを楽しみたいという方が多い。その方向性は一致しているけれど、やはりこだわりのポイントは新郎新婦で違うものです。例えば女性はドレスやリングピローを作るなど、部分的なこだわりが多いのに比

べ、新郎はどんな内容にしたいかというパーティー全体のフレームづくりに関心が高い傾向にあります。

また、新婦は憧れから入るパターンが多く、こんなチャペルでこんなドレスを着て、と挙式のシーン作りにこだわりを持つ方が多いのですが、『パーティーの全体像は?』と聞くとほぼノープランです。そのため、パーティーでは新郎と僕がリードする形で打ち合わせが進んでいくことが多いですね。ドレスやフラワーの打ち合わせは、やはり女性コーディネーターと新婦で盛り上がるので、あとはいかに新郎のやる気スイッチを入れるか?そこが重要になってきます」

ヒアリングではまずロケーションの希望

から引き出していく。自社の箱(宴会場)を持つプランナーと異なり、何もかもゼロからスタートして組み立てていくのがカルロスウエディング。漠然とした状態で訪れるふたりに、まずロケーションからイメージを具体化させる手法を取っているのだ。

屋内か屋外か?そこで緑豊かな屋外というイメージが出てくれば、「レストランがある公園はどうですか?公園にテントを張って挙式場に、レストランにスムーズに移動してパーティーができますよ」という具合にイメージを具体化していく。その過程でふたりならではのストーリーを引き出し、オリジナル度の高い自由なウエディングができることを説明すると、新郎にスイッチが入る、というわけだ。

「特にオリジナルのものや見たことがないパーティーの提案に、新郎のテンションが上がるのを感じますね。

それでも後に新郎の仕事が忙しくなるなど、準備に向けたテンションが下がってしまうこともあります。その際は電話して『仕事は忙しくてもやるのは当たり前!なおかつ結婚式は今、頑張っってしっかりやっておけば、当日はめちゃくちゃ楽しくなりますから!』と励まします」

愉快的エンターテイナー気質のカルロス氏は、しっかり新郎を巻き込んでふたりの準備を促進し、自然にウエディングに対して前のめりにさせていく。



水族館をテーマにしたレストランウエディング。水槽代や会場装飾に費用がかかったが、新郎がこだわっているウエディングの軸をブレない形で実現させた。水族館がテーマだけに、テーマカラーはブルーに設

カルロス浅井  
Carlos ASAI

セントラルスポーツ圏のインストラクター時代についたニックネーム「カルロス」をそのまま屋号に(本名は浅井寛)。2009年より婚礼プロデュース業を開始。現在は年間12組前後のオリジナルプロデュースを行なう。全米ブライダルコンサルタント協会認定プロフェッショナルブライダルコンサルタントであり、静岡英和学院大学短期大学部ブライダルビジネスコースや、ヒューマンアカデミー静岡駅前校のブライダルなどの講師も務める。



南欧風リゾートというふたりのイメージを実現させるため、夏期に伊豆高原の屋外ロケーションで開催したウエディング。地面がタイルだったこともあり、ドレスコードとしてゲスト全員にビーチサンダルを用意した

### まるで水族館みたいな レストランウエディングを実現

最近では男性プランナーの活躍も見られるようになったとはいえ、フリーランスで活動するカルロス氏のようなプランナーはまだ少ない。

もともとカルロス氏はスキーヤーから、セントラルスポーツのスポーツインストラクターになった人だ。その時代に、クラブの会員向けのイベントで持ち前のエンターテイナー性と企画力を大いに発揮して人気インストラクターとなった。

そして20代後半、地元の静岡で独立起業を考えた時に、将来の道として選んだのがイベントプランナーだった。中でも結婚式は人生最大のイベントであることから、まずはウエディングプランナーとなるため地元のゲストハウスで配膳係を経験し、やがてキャプテンを任せられるまでに熟練。また現在は講師として教壇に立つヒューマンアカデミーに通い、婚礼実務をさまざまに学んだ努力家でもある。

現在では地元でも「面白い結婚式をやってくれるカルロスという人がいる」という口コミにより知名度も上がり、「ネットや口コミで僕のキャラクターまで知って来店されるお客さまも多いので、アイスペイクの必要がないのです」と笑う。

これまでに手掛けたウエディングでは、ホテル・式場やレストランでももちろん実施しているが、帆船や客船、別荘貸し切りや高級料亭などオリジナル度の高いロケーションでこそ、その本領を発揮する。

「新郎のスイッチを入れる方法の一つは趣味をコンセプトやロケーションに絡ませることです。ご自身の人生の楽しみでもあるわけですから、これは確実に効く。

例えば『東海大学海洋科学博物館』での水族館ウエディングが、人気コンテンツとなっています。それを目当てに来店されたある新郎は大の魚好き。ところが料理がケータリングになってしまうことから、新婦のご両親が反対された。そこで提案したのは、まるで水族館みたいなレストランウエディングです。

知り合いの熱帯魚屋さんに頭を下げて安く熱帯魚をレンタルさせてもらって、それをメインテーブルの傍に用意した水槽に入れて泳がせ、ゲストテーブルにも小ぶりの水槽を用意しました。レンタルした魚は、映画『ファインディング・ニモ』でおなじみのクマノミです。本当に準備・作り込みも大変で、水槽や装飾にも想定した以上のお金がかかりましたが、目の前で珍しい熱帯魚が泳いでいるのを見られて、新郎新婦・ゲストにとっても喜んでもらえました」

一般に顧客サイドから見た男性プランナーの魅力とは、頼りがいがありそう、堅実さ、などだろう。加えて、同じ男性だけにスイッチボタンがどこにあるか?を探し当てるのも早いそうだ。

### 共通のドレスコード設定も 男性ゲストのテンションを上げる方法

最近では自前のタキシードを作って当日を迎える新郎も増えてきているという。「バッチリおしゃれに決めてくる方もいます

ね。僕も『この機会に1着タキシード新調してみませんか?』と勧めるようにしています。今は男性も衣裳に高い感心を持っているのですが、提供される情報が少ないから『望んでも無駄』と思われるのではないのでしょうか。現実にピンッと決めた新郎の姿を見た男性ゲストは、『自分の時はそれを着てみたい』と思っているはずですよ」

また、男性ゲストのテンションを上げることも、次の顧客創造という点で大切なこと。カルロス氏は当日のテーマカラーに沿ったドレスコードを決めて、ハンカチやネクタイなどの小物やワイシャツなど、テーマカラーを必ず身につけてくるように仕向け、スイッチを入れる方法を取っている。「ただ座って料理を食べているだけのゲストをいかに減らすか?これが楽しいパーティーにするための課題だと思います。新郎新婦にはゲスト間をできるだけ動き回ってもらいますので、テーマカラーを決めていけば、その小物が元となって会話が弾みますし、ゲストには同じパーティーに参加する者としての連帯意識も持ってもらう。

それにテーマカラーを設定すると、招待状が届いた段階で、ゲストから新郎に『これってどんなものならOK?』みたいな問い合わせ電話が殺到します(笑)。女性と違いドレスコードがなければ、男性は着ていく服をそこまで真剣に考えないですよ。パーティーが楽しく待ち遠しい気持ちになるような、事前の温め効果が期待できるのです」

男性が楽しめるウエディングの空間づくりという部分からも、カルロス氏の手法は見習う点が多いようだ。

Company Data URL = <http://carulos-wedding.com>